

あれこれ

2020年度 第2号

担当：山形支部

お問合せ：山形県建築士会

Tel：023-643-4568

http://www.yamagata-ken.org

山形県建築士会女性委員会では入会者募集中！

■ 第2回建築女子フォーラム



10月3日 酒田の公益文化大学にて第2回建築女子フォーラムが開催されました。本来ならば昨年11月に開催予定でしたが、講師の先生の緊急入院により、1年遅れの開催となりました。しかし、コロナ禍での開催となりますので人数制限をし、消毒と検温・マスク着用で会場入りしたのでした。

大会テーマは～「つなぐ」写真と建築 記憶と記録～ 講師は写真家の北田英治氏です。北田氏は、フリーのカメラマンとして建築雑誌等で近現在建築を撮影取材。

テーマを「人の暮らし・場所・建築」とし東アジア、日本で撮影をつづけています。

第一部の講演会では【写真と建築 記憶と記録】と題し、これまで撮りためた建築写真を見ながらお話を聞くことができました。建築家の藤森照信氏の『ラ コリーナ近江八幡』の写真集も手掛け、写真から設計の想いが伝わってきました。数年前、私もこのラ コリーナを訪れ写真に収めましたが、同じ建物を撮影して、何故こんなに違うのか？

私が撮影したのは、記憶としてではなく記録としての写真だったのでした。

第二部のワークショップでは【撮影テクニック】です。事前に参加者が撮影した写真を募り、北田氏よりアドバイスが受けられるという滅多にないチャンスです。

私も、お気に入りの一枚を講評していただきました。「露出を絞るといい。」とのアドバイスに普段、スマートフォンでしか撮影しない、写真初心者の私は「露出って何ですか？」

そんな私にもわかりやすく丁寧に説明していただき、北田氏の気さくな人柄が伺えました。

午後は3つのコースに分かれてのエクスカージョン。

Aコース 清遠閣・鶴舞園見学

Bコース 土門拳記念館見学

Cコース 出羽遊心館見学

どのコースも酒田の美味しい昼食付です。

私はAコースの清遠閣・舞鶴園を選択。

国指定名勝庭園「鶴舞園」は紅葉が美しい庭園として知られています。

10月初旬のこの日は、紅葉にはまだ早く、木々は青々としていましたが、

手入れされた美しい庭園と大正ロマンを偲ばせる清遠閣を、写真に収めようと、参加者は皆、先ほど学んだばかりの、撮影テクニックを駆使していました。普段、何気なく撮っている写真は「記録」にすぎない。「記憶」に残る写真を残そうと思った、有意義な一日となりました。



Aコース 清遠閣にて



「建築女子フォーラム」に参加して

福島県建築士会女性委員長
酒井 美代子

第2回建築女子フォーラムの大会が成功に開催され、準備をして来られた草刈委員長はじめ、酒田支部の皆様、大変お疲れ様でした。そして参加させて頂きましてありがとうございました。新型コロナの影響で何も手に付かずにいた私の気持ちに勇気と光を与えてくれました。心にもすがすがしい風が流れ、一歩踏み出すことが出来ました。昨年の開催の際に参加を予定していましたが、北田先生の緊急入院の為延期となっておりました。今年になり、新型コロナ感染拡大防止の為、建築士会の活動やイベントが自粛される中、十分な対策をし実施される事になったと、申込をしていた私たちにも再度声をかけてくださりました。大変うれしく参加を決めました。そして、期待に胸を膨らませて、山形県酒田市へ向かいました。

朝6時10分、福島県の裏磐梯の自宅を出発、米沢へは、西吾妻スカイバレーを通ると1時間ほどで着きます。それから、東北中央自動車道、山形自動車道、日本海東北自動車道を乗り継ぎ、9時半に酒田市の東北公益文科大学へ到着しました。

酒田キャンパス公益ホールでは、酒田支部女性委員長の古川美紀さんをはじめ、メンバーの方々が、この日の為に新しく揃えたジャンパーを着て出迎えてくださいました。

今回の建築女子フォーラムでは、第一部・講演会【写真と建築 記憶と記録】と題し、写真家の北田栄治先生のお話を聞くことが出来ました。写真家の方の話をこのような形で聞くことは今までなかったので、目からウロコの話に深く感動をしました。走り書きのメモには、北田先生の「建築写真」へ込めた思いを感じ取ることが出来ました。

「建築写真」とは？

- ・建物をそのまま写すこと。
- ・建物の持っている空気感を写すこと。
- ・どのように造られているかを写す。
- ・その土地で採取された材料や素材（木・わら・土など）を写す。
- ・暮らしや街並みなどの記憶として風景を写す。
- ・建物の荒々しさ、ダイナミックな空間を写す。

「写真を撮るなら」

- ・写真を撮りたくなる場所、気持ちの良い場所を撮る。
- ・風が抜ける場所を造るのが建築家→それを写すのが写真家。
- ・すがすがしさ、風、光、影（朝日は明るいので影を生む→風景がはっきり写る）



Bコース 土門拳記念館

第二部・ワークショップ【撮影テクニック】では、参加者の皆さんからの写真に北田先生がアドバイスをする形式でした。「露出をしぼる」とは、暗くして撮る事。そうすることでより影がはっきりできる。大きい建物の場合は、下がって広角で撮るなどの具体的なアドバイスは私たちにも実践できる内容でした。北田先生の話聞いてからは、写真の見方が劇的に変わりました！これからは、撮り方も変わる！と思うと嬉しくなりました。

エクスカーションはBコース・土門拳記念館の見学でした。北田先生と同じコースだったので、昼食会場へ向かう車に同乗することが出来ました。移動中の車の中や昼食時などたくさんのお話を先生とすることが出来ました。今回の貴重な体験を胸いっぱいにし、帰路に向かいました。帰宅したのは夜の7時を過ぎていました。早速帰宅後、家族に今日の講演会で聞いた「建築写真」のお話をしました。そして、会場で購入した写真集「ラ コリーナ近江八幡」を見ました。1年間かけて撮影した建築写真には、何気なく写した物ではない、さすがしさ、風、光、影がしっかり映っていました。

さて、福島県では、今年、東北ブロック会を開催予定でございましたが、来年度に延期を決定しました。全建女が9月25～26日開催が決定になったので、福島県では日程から大きな変更が必要になり、再度、検討することになりました。今回の山形県建築女子フォーラムを参考にし、大会を成功させたいと心に決めました。

北田英治氏講演会に参加して

酒田支部 池田 茂樹

先生のお話の中で強く残った一つが、建築の作品を撮るには標準レンズという画角も大切ということ。普段から室内外共に撮影範囲に幅を求めることから広角レンズを使うことが一般的となっている。

しかし北田先生が撮影した「近江八幡の草屋根の建物」は分割して撮影した画像を画像処理ソフトウェアでうまく結合させているというのには驚いた。

思えばあれだけの長い建物がいくら広角レンズでも納まるはずもなく広角という特性から両側が歪んでしまうはず。それに比べ標準レンズはもっとも肉眼に近い画角とされているので結合させれば歪みのない自然な見え方になるのかと思えた。私たちが作品を公開するにもこうした手法を使えば、作品を肉眼に近い見え方で正確に伝えられるのかも知れない。

今やスマートフォンによる撮影が当たり前の時代で、こうしたソフトウェアはスマホアプリとしても公開されており、私も入手して現在勉強中である。



講演する北田英治氏

*** 活動報告 ***

この度、日本建築士会連合会女性委員会WEB版のガイドブック「魅力ある和の空間ガイドブック」(最終版)の作成にあたり、旧風間家住宅「丙申堂」を推薦することになりました。

10月14日(水)鶴岡田川支部女性委員会メンバーのうち6名で旧風間家住宅「丙申堂」へ取材へ行ってきました。

パンフレットに掲載してある写真を使用しても良いとのことでしたが、何年も前に撮影した写真なので画像数が低い為、私たちの撮影した写真を掲載することを許可して頂きました。鶴岡の有名な建物業なので何度か足を運んだことのある旧風間家住宅「丙申堂」でしたが改めて見てまわり、楽しく興味深い時間を過ごせました。

照明を調整したり構図をみんなで確認したりして良い写真が撮れました。皆様に御覧いただける日までしばらくお待ちください。



鶴岡田川支部 三浦 美毅

「魅力ある和の空間ガイドブック」は公益社団法人日本建築士会連合会のHPよりご覧いただけます。

魅力ある和の空間ガイドブック

検索

CLICK!

